

学校関係評価委員会報告書

令和5年3月



専修学校 徳島県美容学校

I 学校の現状

1. 学校名
専修学校徳島県美容学校

2. 所在地
徳島県徳島市佐古二番町3-5

3. 沿革
昭和30年 9月 私立各種学校徳島高等美容学校として認可
昭和30年10月 厚生大臣指定徳島県美容師養成施設として夜間課程、通信課程を創立
昭和33年12月 校舎移転
昭和34年 3月 養成所廃止 徳島県美容業環境衛生同業組合立徳島高等美容学校設立
昭和52年 6月 校舎移転
昭和57年 4月 昼間課程設立、夜間課程廃止
昭和61年 1月 校舎改装
平成10年 新制度に変更
平成12年 4月 専修学校に変更
平成22年 4月 新校舎設立

4. 学科の構成
衛生課程 美容科
衛生課程 美容ダブルライセンス科
衛生課程 別科 通信課程 美容科
衛生課程 別科 通信課程 美容ダブルライセンス科

5. 学生数及び教員の数
衛生課程 学生総数53名
衛生課程 別科 学生総数39名

II. 学校の理念、教育目標

教育理念

「笑顔と感謝の心」本校では、この言葉を重んじ、高い知識と技術のみならず、心ある人材を育成し、社会に貢献することを使命と考え、その基本姿勢を学則に記している。

(学則)

第1条 本校は教育基本法及び学校教育法並びに私立学校法に従い、人格の完成と、平和的な国家及び社会の形成者として、勤労と責任を重んじ自主的精神に充ちたる心身共に健康なる生徒を育成することを目指し、社会人としての教養と、近代的な感覚と、専門的な知識と技術を修得せしめ特に美容技術の研究研磨並びに衛生知識の向上をはかるを目的とする。

教育目標

・本校の教育理念に基づき、笑顔と感謝の心を忘れない、人として魅力ある人間性豊かな人材を育成する。

III. 令和3年度の重点目標

目標

国家試験対策の強化

基礎技術の修得。接遇マナーの強化。

計画（目標達成の為の具体的計画）

美容所に入ってから、一番必要だと言われている接遇・マナーを徹底し、美容所での受付や電話対応への即戦力を養う。

国家試験対策として、技術の指導はもちろんだが、学科対策として1年生の時から小テスト等を行い、知識の蓄積とテスト対策を徹底する。

学生との面談を定期的に行い、学生自身が掲げる目標を明確にし、国家試験合格や大会に対し、積極的に取り組ませる。

IV. 評価項目別評価報告

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における職業教育の特色を定めているか	3
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	4
・各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

【具体的な取り組み】

明確な学生像、育成したい人材像を定められている。
業界ニーズに関しても、企業の方との面談や、就職ガイダンスの際に意見を聞くなど、現状の把握を行っている。
学生、保護者へ向けての周知だが、ガイダンスやオープンキャンパスで周知をおこなってはいるものの、特に保護者に向けての周知が万全ではない。

【課題と今後の改善策】

今後も、企業のオーナーや卒業生との情報交換を行い、現状の社会的ニーズの把握に務める。
進路ガイダンス、オープンキャンパスはもとより、高校訪問や入学説明会等のイベントごとに本校の理念や目的等周知を行い、広く学生、保護者また高校に向けて情報発信を行っていく。

【学校関係評価委員評価】

もっと密に企業との連携を取って、企業のニーズを把握するとよい。入社後、挨拶から教えなければならない新入社員と、すでに接遇・マナーができていない新入社員では大きな差が出てくる。
学校の広告も、もっともっと行って高校との連携も密にとるとよい。

(2) 学校運営

評価項目	評価
・目的に沿った運営方針が策定され、それに沿った事業計画が策定されているか	3
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、また有効に機能しているか	3
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

【具体的な取り組み】

2022年度より、理事長と校長が兼任となくなったことを受け、連絡、伝達、意思決定機能が組織としてより強く必要となってきた。
情報公開に関してはHPを有効に使い、教育活動等その都度公開をしている。

【課題と今後の改善策】

国家試験合格という大きな目標に向かってのカリキュラムはしっかりと組まれている。しかし、もっと明確に第三者にも分かりやすくするため、より詳細を記した資料を作成し、誰が見ても分かるように改善していく。
情報システム強化については、今後の課題となってくるが、人材的ハード的な問題を一つずつ解決していく必要がある。

【学校関係評価委員評価】

イベントごとの情報公開はとてもいい。学校が行っていることを知ってもらうことが広告にもなる。事業計画は、もっとしっかりと組み立ててもいい。その場その場で行き当たりばったりにならないように、年間計画、月間計画を立てる必要がある。

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
・関連分野における業界等との連携に於いて優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	3
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得する為の研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4

<p>【具体的な取り組み】</p> <p>授業評価や学習時間の確保は十分に行えている。ニーズを踏まえた人材育成として、本年度よりインターンシップを行い、県内美容所で職場体験を行った。これにより、短期間ではあるものの、実際の美容師としての仕事を体験し、各自の理想とする将来像を明確にすることができた。また、企業側も現状の学生の状況を把握することができ、学校へ求める知識、技術等が明確になってきた。</p>
<p>【課題と今後の改善策】</p> <p>授業評価や理解度評価、また進級、卒業判定は明確になっており、特に問題はないと思われる。</p> <p>今後は、専門学校としてより実践的な知識や技術を修得し、就職後できるだけ即戦力となれるよう、現状のニーズにそった人材育成に力を入れる必要がある。本年度行ったインターンシップを来年度も行き、学生と学校と企業間のギャップをできるだけなくし、企業のニーズに応えられるカリキュラム、目標を立てることが重要になってくる。</p>
<p>【学校関係評価委員評価】</p> <p>資格取得が一番大切な目標だが、それにプラスαで、もっと実践的な人材が育成できるようにカリキュラムを組んで欲しい。企業と連携して今必要な技術は何かを知ることが大切。教員ばかりに負担がかかるのもよくないので、企業に協力をしてもらい、講師として学校へ来てもらおうとよい。</p>

(4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	4
・退学率の低減が図られているか	3

【具体的な取り組み】

元々、美容師の求人は多い上に、本校が組合立である利点もあり、就職率は100%を達成している。ほとんどの学生が美容師を目指しているが、より詳しく分類すると、ヘア技術、まつ毛エクステンション技術、着付技術、ブライダル技術など希望する技術は一律ではない。それぞれの希望がかなうよう、学生時代にできるだけ多岐にわたった技術修得ができるよう授業カリキュラムを組んでいる。

【課題と今後の改善策】

相変わらず、美容師は求人が多く、就職活動は100%の就職率を達成している。また、組合、企業、学校が連携して「産学連携就職情報事業」も行っており、就職後の離職率が減るように協力体制も行っているため、引き続きこの事業を行うと共に、学生の追跡調査も行い、離職率についても調査する必要がある。

【学校関係評価委員評価】

最近の学生は、離職率が高い。企業側ももっと努力して、色々新しい事にチャレンジをさせるとか、イベントに参加させるなどしてメリハリのある仕事をしながら、技術の向上を図る。学校側も企業とのミスマッチが無いよう、先に就職した先輩たちから話し聞いたり、先輩たちに来てもらって、学生の前で話をしてもらおうなど状況報告も行うとよい。

(5) 学生支援

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	3
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
・保護者と適切に連携しているか	3
・卒業生への支援体制はあるか	4

【具体的な取り組み】

組合立でもあり、「産学連携就職情報交換事業」として、学校、企業との連携が十分にとれている。
担任制であることから、相談もしやすい状況となっている。
経済的な支援として、日本学生支援機構の手続きや、授業料の分割納入にも柔軟に対応している。

【課題と今後の改善策】
<p>経済的な支援として、学校独自の奨学金制度は取り扱っていないが、日本学生支援機構、高度教育修学支援対象校にはなっている。授業料等の一括納入ができない学生には、個別に分割納入に応じるなど柔軟に対応をしているが、一部の学生は、奨学金の手続きを忘れていたり、上手くいかなかったりすることがある。何度も声掛けをするなど、手続き忘れがないよう周知、手助けを細やかに行っていくことが不可欠となってくる。</p>
【学校関係評価委員評価】
<p>学生と保護者へのこまめな連絡が必要。最近では、経済的に厳しい家庭も多い。柔軟に対応する必要がある。学生だけでは解決できない問題なので、保護者との連携は必ず必要。</p> <p>学生と担任との相談もいいが、カウンセラーを置くのも一つの手段としていい。関係のない第三者になら話せることというのがある。</p>

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	4

【具体的な取り組み】
<p>入学時に非常セットを各人一つずつ購入するなど、防災対策を行っている。設備、施設についても、教育上不便のないよう整っている。全校そろってのイベントとなると、教室では狭いので、近くにある県の施設を借りるなどして対応をしている。</p>
【課題と今後の改善策】
<p>設備としては、現状必要なものはないと思われるが、消耗品等必要なものについては、その都度購入するなど個別に対応をしている。必要なもの、あれば便利なものについては、教職員からの提案により、予算を取るなどして対応していく。</p>
【学校関係評価委員評価】
<p>設備に関しては、問題はないと思う。インターンシップなどを行うのであれば、最新のものなどは、企業で体験すればよい。学校で必要な技術修得に関しては、現状の設備や施設で問題はないと思う。イベントなどは、大きな会場を借りればよい。</p>

(7) 学生の受け入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4

【具体的な取り組み】
本年度より新校長が就任し、各高校回りを行っている。また、その際には教員も一緒にまわり、教育成果についても説明を行っている。 オープンキャンパスも月に1回は行い、体験を通じて高校生に本校の魅力が伝わるように工夫を凝らしている。
【課題と今後の改善策】
本年度は、学校まわりの回数が少なめであったので、来年度はもっと回数を増やしオープンキャンパスなどの周知を徹底したい。また、パンフレットを一新し、本校の魅力が伝わりやすくなるようにしたい。
【学校関係評価委員評価】
学校募集は頻繁に回るとよい。他の学校だと月に1回くらいの割合で回っている。何度も言うが、知名度を上げることが必要。オープンキャンパスは頻繁におこなっているようなので続けていくとよい。

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

【具体的な取り組み】
財務情報は、HP等で公開している。
【課題と今後の改善策】
財政基盤の安定が目下の課題となっている。学生募集、学校広告に力をいれて基盤安定を図りたい。
【学校関係評価委員評価】
財政基盤の不安定さを無くす為にも、上記の学生募集に力を入れる必要がある。今まで通りのやり方にもう少し人手と時間を割いて、精力的に学校まわりをする必要がある。そうして基盤を固めた上で、予算を立てていくことが大切。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護の為の対策がとられているか	4
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
・自己評価結果を公表しているか	4

【具体的な取り組み】
法令遵守は適正に行っている。個人情報に関しても、PCのセキュリティ対策、書庫の鍵等対策を行っている。 自己評価についての結果もHPで公表している。
【課題と今後の改善策】
引き続き、法令遵守と適正な運営を図る。 自己評価の内容を一度見直し、より学校運営に反映しやすい方法で改善できるようにする。
【学校関係評価委員評価】
法令遵守については、引き続き適正に取り組んで下さい。

(10) 社会貢献・地域貢献	
評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3

【具体的な取り組み】
社会貢献・地域貢献として活動する機会がない為、学生達にもっと地域の為、社会の為活躍できる場を提供していく。
【課題と今後の改善策】
ボランティア等を通して、自分達が社会の為になにができるのか考える機会を作れるよう、学校活動を考える。
【学校関係評価委員評価】
何か在学中に社会貢献ができる場を作って、体験させることも大切なので、ボランティア等考えた方がいい。